

第2回協議会の指摘事項と対応(案)

(1) LRT整備の目的について

No.	ご意見等	対応(案)
1	清水のまちづくりや賑わいの創出といった施策を示したうえで、LRTの必要性を導くプロセスがあるべき。また、歩行空間の充実やBRTなどのシステムよりLRTの整備が望ましい理由の説明も必要である。	清水のまちづくりに対する施策(案)は資料3 P6に示すとおりであり、まちづくりと一体となってLRTの導入を目指していく。 日の出のようなウォーターフロントのまちづくりとLRTの導入の連携による事例は参考資料 P31に示すとおりである。 LRTが望ましい理由については、資料3 P4に示す。
2	ルート設定とも関係するが、誰がどのような移動目的でLRTを利用するのか、すなわちターゲットを明確にするべき。これはLRTの必要性を示すことにも繋がる。	清水ルートの導入の目的は、日の出地区のまちづくりの促進とまちと港の一体化であり、主な利用者としては、沿線住民や観光客で、各拠点の移動手段としての利用を想定している。 資料3 P3、P10
3	LRT導入の意義や位置づけは、多くの市民から理解を得るために今後何度も議論や説明をしていく必要がある。	LRTの導入への最も重要なことは市民の合意であり、そのためには今後、議論や説明を行っていくことが重要と認識している。 今年度もシンポジウムやオープンハウスなどを行いながら、市民への周知を行い、LRT導入への意識を高めていく。

(2) 需要及び採算性について

No.	ご意見等	対応(案)
1	今回提示された需要について、その算出根拠を更に示す必要がある。	平成23年度と平成24年度との算出方法の違いを明確にする。参考資料 P1~4 また、最新版の交通実態調査(第4回静岡都市圏PT調査)の調査結果がH25年度末にとりまとまるので、今後はその結果を用いて、精査していく。
2	交通事業は一般的に単独で採算を得ることが難しいが、本LRTについても同様な試算結果となった。今後は需要を増やす方を議論することに加えて、公共交通の位置づけとこれを整備し維持するための負担に対して、市民の合意をどのように得ていくかが重要な議題となる。	運行頻度が多く利便性が高い、静岡鉄道についても、鉄道事業単独で黒字は出していない。静岡市におけるLRTの導入においても、単独の事業ではなく関連する施策とともに実施する事で採算性を満たしていく考えであることを示し、市民合意を図っていく。

(3) ルートについて

No.	ご意見等	対応（案）
1	<p>示されたルートが日の出地区の開発等を見据えたものであることは理解するが、現時点で居住人口の多い地区にこそLRTを導入して、その利便性を多くの市民が享受できるようにするべきではないか。これにより民間が主体となった地域の発展も期待できる。</p>	<p>清水都心においては、まずは、日の出地区の新たなまちづくりと、「まち」と「みなと」が一体となったLRTの導入により、都市の魅力向上や民間活力の活性化、人の回遊性が高まり、地域の発展が期待できると考えている。</p> <p>現在居住人口が多い地区については、今後LRTの延伸を検討していくとともに、交通結節機能の強化や、他公共交通との連携により、利便性を高める。 資料3 P2、P3</p>
2	<p>JR清水駅の接続は、市街地であり将来延伸の可能性もある西口側が望ましいと考える。</p>	<p>JR清水駅西口への接続は、清水橋通過の更なる技術的な検討の継続や、駅西口広場の改修等、課題が存在している。</p> <p>清水都心においては、地区の資源である「みなと」を活用し、都市の魅力を高めていく必要があるため、「みなと」へのアクセス口である、JR清水駅東口への接続が望ましいと考える。</p>